

第33回安全管理の最新動向講習会

※ プログラム ※

7月29日(月)	
13:30～15:00	重大事故から学ぶこれからの化学プラントの安全管理 東京工業大学 中村 昌允 氏  2011 年から化学プラントで起きた一連の重大事故の背景には、現場力の低下がある。それぞれの事故で問題となったリスクマネジメントのポイントについて、「リスクアセスメント」、「変更管理」、「設備システムの設計」の点から解説する。化学産業の歴史は幾多の痛ましい事故を経験し、その原因を究明し新たな技術やシステムをすることによって発展してきた。これからの安全管理は、製造現場で起きている「人」「設備」「管理」の変化を踏まえて構築する必要がある。特に、「人」の変化を踏まえた「人と機械との調和」、「システムの構築などの課題をどのように取り組んでいくかが問われる。
15:15～16:45	安全文化は人とのつながり 一日揮のHSSE文化醸成への取り組み 日揮株式会社 西山 文雄 氏  従来、各職場で取り組んできた安全管理手法は、「管理技術」を重視した考えで、ライン側とすれば「やらされ感」が職場に漂う。しかし、技術重視の考え方には限界があり、事故の最多原因である「ヒューマンエラー」の対応にも限界を感じる。この運動は、人のメンタル面に着目し、作業関係者をはじめ管理者側が一体となって、「心の結びつき」による新たな安全管理手法「いいふれあい運動」の推進すなわち、互いの気遣い・気配りにより、職場から事故・災害を未然に防ぐ取り組みを紹介する。
17:00～18:00	親 睦 会
7月30日(火)	
9:15～10:45	『安全を創る！！』航空業界における安全の創造 日本航空株式会社 落合 秀紀 氏  航空業界においては ICAO(国際民間航空機関)が推奨するリスク管理手法をもとにした「安全管理システム」を構築しており、一般的リスク評価は結果の「重大度×頻度」のマトリックスによって表される。しかし、実際に発生する事象はこうした「公式」で解決できることはまれであり、経営、リスク評価、安全文化と企業活動の総合力が必要とされる分野である。当社においてはジェームズ・リーゾンのスイスチーズモデルで示される組織、職場、人などそれぞれのバリア(「安全の層」)をさらに厚くしつつ、かつ、潜在するリスクをいかに見出し、取り除いていくか、実務的な事例により、「安全への取組」を紹介する。
11:00～12:30	ヒューマンファクターツールを活用した従業員の“安全力”の向上 JR東日本研究開発センター 楠神 健 氏  現場の安全パフォーマンスを維持・向上するためには、ルール of の徹底のみに偏るのではなく、社員の自ら考え行動する力が重要なことを述べたうえで、そのために導入しているいくつかのヒューマンファクターツールを紹介する。具体的には、他箇所が発生した事象から自現場の教訓抽出を支援する『他山の石』置換え支援ツール、東日本大震災の避難誘導の分析から重要とされた臨機応変な対応力を高めるための『異常時イメージトレーニング法』、現場の安全に役立つ情報の収集・共有化を図るための情報バンク『安全ポータル』などについて紹介する。
12:30～13:30	休 憩
13:30～15:00	自律的安全活動による安全文化の構築 ～トップダウンとボトムアップの融合～ 横浜ゴム株式会社 西 正幸氏  「安全衛生は全ての基本である」という理念のもと、経営・全従業員で「人」「もの」「しくみ」に着目した安全活動を展開している。個々の作業者の意識の違いや考え方の違いを重んじながら対1人でコミュニケーションを図ることを目的とした活動の事例紹介。OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)をベースとした現場・現物、一人ひとりに迫る活動の展開によるリーダーシップとボトムアップの融合、安全の自律神経を養う取り組みについて考える。
15:15～16:45	Safety-I と Safety-II:生産的な安全管理への挑戦 慶應義塾大学 中西 美和 氏  超成熟化社会といわれる一方、不確実性が増す現代において、従来の安全管理の考え方である“Safety-I”に加えて、新たな視点での“Safety-II”に対する関心が高まっている。まずは、これら二つの安全戦略について、できるだけわかりやすく、しかし原義に忠実に解説することを試みたい。そのうえで、“Safety-II”を実務においてどう活かせるのかの糸口をつかむべく、安全活動としての展開可能性とそのため課題を、研究事例を示しながら議論したい。